

## 河内卯兵衛と戦後の太宰府

河内卯兵衛は明治9年（1876）3月4日、福岡市行野町で生まれます。福岡商業学校を卒業後、15歳で家業の糸問屋を継ぎ、明治33年（1900）に太田清蔵と博多絹綿紡績を興し、同社取締役となります。その3年後には渡辺与八郎を補佐して博多電気軌道を開業、このほかに遠洋漁業、製氷、貿易、鉄工業の重役を務めるなど、博多を代表する経営者となりました。昭和13年（1938）4月には福岡市長に当選しましたが、同年8月には選挙違反容疑のため辞任しています。

河内の名は財界人としてだけでなく、福岡市を博多市に改称することを最後まで唱えた人物として著名です。博多の名前にこだわった理由は、福岡という地名は元来黒田家の本貫地である備前国邑久郡福岡に由来するものであり、他方で博多は古来から文献に見え、今日まで使用されてきたからというものでした。

その河内は光明寺の傍らに居を構えていたため、太宰府における文化活動の一翼を担っていました。昭和

## 太宰府人物志

資料室だより⑪

22年（1947）10月観世音寺復興会の発起人となったり、あるいは「古文化を語る会」などを開催しています。太宰府町と水城村が合併した頃には太宰府の発展を期した興味深いメモを残しています。同年3月25日の日付をもつそれによれば、河内は「太宰府発展期成会」を立ち上げ、温泉の掘やロープウェイの架設など十件の

施策を考えていました。河内は博多の発展と太宰府の発展を重ね合わせて見ており、長崎や熊本を仰ぎ見ていた「田舎町の博多」が発展したのは民間団体による努力の成果だと説き、太宰府町民の奮起を期待しています。その根幹にあったのは「太宰府水城は歴史に於て日本無双のもの」とあるように地域が有する歴史性への注目でした。そして「文化全盛の時代」なら大いに太宰府の改良が可能であると見えています。その河内も昭和38年（1963）11月10日に享年87歳で没しました。

なお、河内卯兵衛たちによる観世音寺復興の歴史については、6月23日から文化ふれあい館で展示を予定しております。